

安八の昔話 129

芝原地区

文 日本児童文学者協会会員

小森 波鏝子

今昔

素掘りの水路を流れる水はゆるやかで澄んでいた。

いろんな命が生息しとる水の中はそりゃあにぎやかなんやさ。

目高、泥鰌、諸子や鰻、それに鮒や鯉、イタセンパラもあって川底の泥の中にはシジミやツボ等がいっぱい潜んどった。

季節が巡りその時期になるとあちこちでホテルが乱舞した。餌になるカワニナが小石をばらまいたようにわんさとおるんやさ。水路で洗濯をしたり野菜を洗ったり水の恩恵は人間も生き物もそれぞれので上手に共存しとった。

孟宗竹の節をくり抜き五センチぐらいの筒っぽこを作ると夜をまって手頃な所に沈めておくんやさ。翌朝あげてみると川蟹が何匹も入とった。きれいな水に住んどる生き物はどれもがどうやっても旨かった。

水棲昆虫はそれぞれの領分を保ちかぞえきれない程の種を守っていた。いつの頃からだろう、こんな身近かな所でかけがえのないものを見失ってしまったのは……

一部を除きほとんどが絶滅危惧種に指定されている。



協力

棚橋 鈴子さん (69歳)

あの頃の『広報あんぱち』

～平成4年7月号の記事より～

安八町青年のつどい協議会  
発足5周年記念事業

「いい街発見、  
中須川こいろまん」

平成4年5月24日(日)

あの頃を振り返って

安八町北今ヶ渚 在住  
古澤 達行 さん



▲表紙



安八町の中心を流れる中須川の清掃活動を通じ「安八町の未来を担う青年同士、町の発展のために一致団結しよう」というメッセージを発信していました。

また、中須川を「清流」と位置付けるため、清掃活動後にコイを放流していました。

これからも人々が憩い、集う中須川を中心とした安八町が発展していく姿を眺めていきたいと思ひます。

◎当時、古澤達行さんは安八町青年のつどい協議会専務理事としてご活躍されていました。



▲「いい街発見、中須川こいろまん」(まちのトピックス)